



情報モラル指導資料集



Student

Teacher

Contents

Information

Links

Student

情報モラルを学びましょう

情報社会において、適正な活動を行うための基になる考え方と態度を身に付けましょう。

★「タイトル」部分をマウスでクリックしてください。

Nº	タイトル	指導項目	対象学年
1	ほんとかな？	情報の信頼性	小学校(低学年)
2	うまく伝わらない	文字だけのコミュニケーション	小学校(中・高学年)
3	チェーンメール	チェーンメール	中学校(全)
4	メディアリテラシー	メディアリテラシー	高等学校(全)
5	パスワードのたいせつさ	パスワードの重要性	小学校(低学年)
6	みんなが見ているWebページ	Webページの公開	小学校(中・高学年)
7	なりすまし	なりすまし	中学校(全)
8	コンピュータウイルス	コンピュータウイルス	中学校(全)
9	データの流出	データの流出	高等学校(全)
10	返したいけど返せない	データの変更や消去	小学校(中・高学年)
11	インターネットショッピング	インターネットショッピング	中学校(全)
12	架空請求	架空請求	中学校(全)
13	悪質商法	悪質商法	高等学校(全)
14	じぶんのちからでつくる	著作権法	小学校(低学年)
15	こじんじょうほうに気をつけよう	個人情報保護法	小学校(中・高学年)
16	出会い系サイト規制法	出会い系サイト規制法	中学校(全)
17	不正アクセス禁止法	不正アクセス禁止法	高等学校(全)
18	どうにもとまらない	健康被害	小学校(低学年)
19	ほんとうは、そうならない	仮想現実	小学校(中・高学年)
20	有害情報	有害情報	中学校(全)
21	メディアへの依存	メディアへの依存	高等学校(全)
22	早く広くつたわる悪口	ひぼう・中傷	小学校(中・高学年)
23	人間関係の希薄化	人間関係の希薄化	中学校(全)
24	プライバシー	プライバシー	高等学校(全)

京都府教育委員会

009494



||||| **Teacher** |||||

(1) 情報モラルの必要性

近年、情報化の進展にはめざましいものがあり、「IT革命」と呼ばれるように急激かつ大幅な社会の変革が進行しています。社会の高度情報化に伴い、情報を主体的に選択し、活用できる能力が一層重要となっており、教育活動全体を通じてコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段の積極的な活用が図られています。

情報化により有益な情報を容易に入手できるようになった反面、インターネット上には、法律で禁止されている物品の売買や、プライバシーの侵害、誹謗中傷など違法や有害な情報も多数流れており、児童生徒がこうした情報に偶然接触することにより、被害者となる危険性が常にあります。出会い系サイトや不正アクセス、架空請求などインターネットを悪用したネット犯罪は、年々増加する傾向を示しており、児童生徒を巻き込んだ様々なトラブルも起きています。また、児童生徒が不適切な情報を発信してプライバシーや著作権を侵害してしまうなど、無意識のうちに加害者となる場合もあります。

更に、児童生徒がインターネットや携帯電話に依存しすぎるため、情報に埋没してしまったり、現実体験と疑似体験を混同するなど心身の健康に様々な影響を与えていることが指摘されています。

情報モラルは、こうした情報化の影の部分に対応し、情報社会で適正な活動を行うための基となる考え方と態度といえます。ITには、全ての利用者が、情報の送り手と受け手の両方の役割を持ち、発信した情報は瞬時に世界に伝達され、大量の複製が可能であるなど特有の性質があります。社会生活を営む上で必要なルールやマナーは、インターネットを活用する場合も同様であると理解させるとともに、こうした特性を踏まえ、社会生活の中でITが果たしている役割と影響を認識させながら、情報モラルの必要性について考えさせることが大切です。

コンピュータや携帯電話が普及し、児童生徒が学校外で情報手段を活用することが多くなっています。家庭や地域と連携して、情報モラルの育成に取り組むことも必要です。

(2) 指導項目

情報モラルの指導にあたっては、「何々をしてはいけない」という表面的な対処方法を身に付けさせるだけでなく、「なぜいけないのか」について、その理由を正しく理解させ、実際の問題場面に遭遇したときに適切な行動がとれる考え方と態度を育てることが大切です。そのためには児童生徒に分かりやすい事例を扱いながら、「自分ならどうするか」を考えさせる活動を多く取り入れる工夫が必要です。

例えば、悪意の込められたWebサイトや電子メール等に遭遇した時は、「無視する」という態度が大切ですが、対処方法を間違えると個人情報や相手を教えてしまったり、迷惑メールが多数送られてしまったりといった事態を招く場合があります。児童生徒には、具体的事例を通して、このような場合の予備知識やトラブルに巻き込まれないための回避策を理解させておくことが重要です。

このため、本指導資料集では、情報社会を生きる児童生徒に付けたい力という観点から、具体的な課題を想定し、遭遇する機会が多く指導の必要性が高い指導項目を掲載しました。

(3) 指導の計画例

各学校においては、教育活動全体を通じて情報教育が推進できるよう、各教科等の目標や内容及び相互の関連を踏まえ、年間指導計画を作成し、その中で児童生徒の実態や発達段階に応じて、情報モラルの指導を位置づけることが大切です。

分 類		コミュニケーションに関するこ と	セキュリティに関するこ と	消費者生活に 関すること	法律に関するこ と	心身の健康に関する こと	対人関係 に関するこ と
付けたい力		情報交換や交 流の知識や能 力	情報保護等 の知識や能 力	消費者としての 知識や能力	法律等の知識と それに対する実 践力	心身の健康に対する 知識とそれに対する 実践力	道徳性や 倫理観
小 学 校	低学 年	情報の信頼性	パスワードの 重要性		著作権法	健康被害	
	中・高 学年	文字だけのコ ミュニケーショ ン	Webページの 公開	ソフトの売買・貸 し借りのトラブ ル	個人情報保護法	仮想現実	ひぼう・中 傷
中学校		チェーンメール	なりすまし	インターネットシ ョッピング	出会い系サイト規 制法	有害情報	人間関係 の希薄化
			コンピュータ ウイルス	架空請求			
高等学校		メディアリテラ シー	データの流出	悪質商法	不正アクセス禁 止法,	メディアへの依存	プライバシ ー

指導項目間には、それぞれの内容に関連性があり、より高い学校段階の指導項目であっても、児童生徒の実態に合わせた内容として指導し、理解を深めていくことも必要です。
 なお、盲・聾・養護学校においては、児童生徒一人一人の状況に応じて個別の指導計画に適切に位置づけて指導することが大切です。

これらの指導項目を指導の観点から整理すると、次のようになります。

小学校

指導目標 プライバシーの保護や著作権などの基礎的な情報モラルやマナーを育成する。

(低学年)

指 導 項 目	主な指導内容	各指導資料のページへ	
①情報の信頼性	情報の正誤を判断するために必要な技能	児童生徒用	教師用
②パスワードの重要性	情報手段の管理に必要な基礎的な技能	児童生徒用	教師用
③著作権法	違法行為についての知識と回避策	児童生徒用	教師用
④健康被害	情報手段、情報技術の及ぼす悪影響	児童生徒用	教師用

(中・高学年)

指 導 項 目	主な指導内容	各指導資料のページへ	
①文字だけのコミュニケーション	情報の発信・伝達に伴う責任	児童生徒用	教師用
②Webページの公開		児童生徒用	教師用
③ソフトの売買や貸し借りのトラブル	不適切な行為についての知識と回避策	児童生徒用	教師用
④個人情報保護法	違法行為についての知識と回避策	児童生徒用	教師用
⑤仮想現実	情報手段、情報技術が及ぼす悪影響	児童生徒用	教師用
⑥ひぼう・中傷	情報の発信伝達に伴う責任	児童生徒用	教師用

中学校

指導目標 情報化の影の部分についての理解を深化させながら、情報モラルを育成する。

指導項目	主な指導内容	各指導資料のページへ	
①チェーンメール	不適切な行為についての知識と回避策	児童生徒用	教師用
②なりすまし	違法行為についての知識と回避策	児童生徒用	教師用
③コンピュータウイルス	情報セキュリティの重視	児童生徒用	教師用
④インターネットショッピング		児童生徒用	教師用
⑤架空請求	犯罪等に巻き込まれない知識と回避策	児童生徒用	教師用
⑥出会い系サイト規制法		児童生徒用	教師用
⑦有害情報	情報手段、情報技術が及ぼす悪影響と回避策	児童生徒用	教師用
⑧人間関係の希薄化	コミュニケーションの重視	児童生徒用	教師用

高等学校

指導目標 情報社会に積極的に参画し、よりよい社会にするために貢献しようとする意欲的な態度を育成する。

指導項目	主な指導内容	各指導資料のページへ	
①メディアリテラシー	情報の主体的な活用	児童生徒用	教師用
②データの流出	情報セキュリティの重視	児童生徒用	教師用
③悪徳商法	違法行為についての知識と回避策	児童生徒用	教師用
④不正アクセス禁止法	情報セキュリティの重視	児童生徒用	教師用
⑤メディアへの依存	情報手段、情報技術が及ぼす悪影響と回避の必要性	児童生徒用	教師用
⑥プライバシー	情報の発信伝達に伴う責任	児童生徒用	教師用

今後の情報化の進展や社会の変化に伴って、新たに指導項目を追加したり、緊急性、重要性の変化により、内容を更新したりすることが必要になる場合があります。
このような変化にも対応できるように、適宜見直しを行う予定です。指導の際は、ぜひ最新の情報を確認してください。



京都府教育委員会



情報モラル指導資料集

Student

Teacher

Contents

Information

Links

Student

ほんとかな？

① きょうのテーマ

じょうほうをたしかめる

② よんでみよう

<れんらく>

たいへんです！！きのう だれかが すいどう
タンクに どく をいれたようです。

がっこう や いえの すいどうのみずを ぜ
ったい のまないように してください。

そして、まわりのひとにも おしえてあげてく
ださい。

みやこすいどうかんりくみあいより



③ あなたはどうおもいますか？

Q1 ここにかいてあることは、ほんとうのことでしょうか？

Q2 ほんとうかどうかは、どうやってしらべればいいでしょうか？

Q3 あなたは、このれんらくをどうすればいいとおもいますか？

④ ともだちのいけんやはなしあったことなどをまとめましょう。

⑤ おもったことやかんそうをまとめましょう。

⑥ できるかな？

○をつけよう

●体験型コンテンツの紹介

※独立行政法人教員研修センター「情報モラル研修教材2005」のコンテンツにリンクしています。

●うその情報かもしれない

Webページで近所のラーメン屋さんの「ラーメンに虫が入っている」という情報を発見したA子さんが、その情報をすぐに友人に話しました。そして、うわさの広まったラーメン屋さんは閉店することになった。

●地域別掲示板

近所のお寿司やさんでお寿司を食べたところおなかをこわして、A子さんは、他の人が同じに遭わないようにと、その情報地域の掲示板に書き込んだところ...

●ダウンロード

左のページを下記のファイル形式でダウンロードして利用いただくことができます。



Wordファイル



PDFファイル

1	ほんとうのことかどうか、よくかんがえる。	A	B	C
2	わからないことは、いろいろなやりかたでしらべる。	A	B	C
3	うそやいいかげんなはなしをひとにいわない。	A	B	C
(A：できる B：わからない C：できない)				

[一覧表へ](#) / [この指導資料へ](#)

京都府教育委員会



情報モラル指導資料集

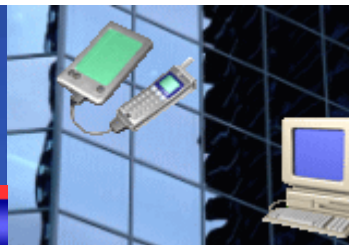
Student

Teacher

Contents

Information

Links



Teacher

●学習用ページへ

本指導項目の学習用ページが表示されます。

1 情報の信頼性

指導項目の分類	コミュニケーションに関すること				
対象・教科等	小学校（低学年） 道徳、生活、特別活動など				
指導のねらい	(1) 情報には正しい情報だけでなく、間違った情報や不確実な情報などがあることを理解させる。 (2) 情報を確かめるには、他の人に聞いたり、色々な情報源から得た複数の情報を照らし合わせたりして、総合的に判断することが大切であることを理解させる。				
指導の手引	- 多くの情報の中には、間違った情報や不確実な情報なども混じっているため、その情報の真偽を確かめずに、すぐに信用してしまうのは危険である。 - 正しい情報を得るために、他の人に聞いたり、いろいろな情報源から得た複数の情報を照らし合わせて、総合的に判断することが大切である。 - 調べ学習も一つの情報源のみを利用するではなく、様々な情報媒体（図書、新聞等）から広く情報を集めることが大切である。				
展開例	<table> <tr> <th>学習活動</th><th>指導上の留意点</th></tr> <tr> <td> 1 本時の学習のめあてを知る 2 ワークシートの事例を読む 3 思ったことを書いてみる 4 友達やグループで「情報の見分け方」について話し合う 5 意見をまとめて数人が発表する 6 自分の感想や意見を書く 7 本時の学習をまとめる </td><td> (Webページを使った体験的な学習活動を取り入れる場合は2と3の部分活動をあてる) - 人によって情報の捉え方は違うことに気づかせる。 「情報源」には様々なものがあり、それぞれの特徴を押さえられるように留意する。 (例) 友達、大人、本、雑誌、テレビ・・・など </td></tr> </table>	学習活動	指導上の留意点	1 本時の学習のめあてを知る 2 ワークシートの事例を読む 3 思ったことを書いてみる 4 友達やグループで「情報の見分け方」について話し合う 5 意見をまとめて数人が発表する 6 自分の感想や意見を書く 7 本時の学習をまとめる	(Webページを使った体験的な学習活動を取り入れる場合は2と3の部分活動をあてる) - 人によって情報の捉え方は違うことに気づかせる。 「情報源」には様々なものがあり、それぞれの特徴を押さえられるように留意する。 (例) 友達、大人、本、雑誌、テレビ・・・など
学習活動	指導上の留意点				
1 本時の学習のめあてを知る 2 ワークシートの事例を読む 3 思ったことを書いてみる 4 友達やグループで「情報の見分け方」について話し合う 5 意見をまとめて数人が発表する 6 自分の感想や意見を書く 7 本時の学習をまとめる	(Webページを使った体験的な学習活動を取り入れる場合は2と3の部分活動をあてる) - 人によって情報の捉え方は違うことに気づかせる。 「情報源」には様々なものがあり、それぞれの特徴を押さえられるように留意する。 (例) 友達、大人、本、雑誌、テレビ・・・など				

●ダウンロード

左のページを下記のフォーマットでダウンロードして利用いただくことができます



Wordファイル



PDFファイル

●投稿コーナー

この資料に関する御意見御感想をお寄せください。

京都府教育情報ポータルサイト内「情報モラル」会議室へ

8 自己評価をおこなう	
発展的な学習	
・ インターネットを利用した情報検索は、短時間に数多くの情報を調べることができるため、とても便利であることを理解させる。 ・ インターネットによる情報はすべてが正しいわけではなく、不正確なものもある。また、場所や時期などの条件によっては、情報が変化するものもあることを理解させる。 ・ 情報の信頼性や信憑性を常に確かめながら、本当に必要な正しい情報を選択整理・活用できる力を付けさせる。	
関連項目	
「Webページの公開」、「有害情報」	

[一覧表へ](#) / [次のページへ](#)

京都府教育委員会